

# 中国語における場所句の位置と機能

言語学・応用言語学専門分野

1LT16031E

2016年（平成28年）入学

井上恵利佳

2020年（令和2年）1月提出

## 要旨

本論文では、中国語の場所句について、以下の3つの問題に取り組んだ。なお、場所句の出現する位置を、主語の後かつ動詞の前の場合は **pre-verbal** 位置、動詞の後の場合は **post-verbal** 位置と呼ぶ。

- (1) なぜ場所句は **pre-verbal** 位置と **post-verbal** 位置の両方で容認される場合があるのか？
- (2) なぜ配置の動詞 (**Vpl**) の場合、**pre-verbal** 場所句でも動作の結果としての直接目的語の場所を指定できるのか？
- (3) なぜ単純目的語を含む動詞句と共起するとき、**post-verbal** 場所句は容認されないのか？

その結果、(1) については **post-verbal** 場所句を取り得る動詞は、動作動詞と結果状態を指定する動詞になる場合があり、それぞれの場合に場所句が付加詞、補語になることが原因であるとした。(2) については配置の動詞が結果状態を指定する動詞の場合、場所句は **pre-verbal** 位置と **post-verbal** 位置に出現し得ることを主張した。(3) について先行研究の制約条件に加えて限界の概念を用いることで、単なる観察に留まらない制約条件を提示した。

## 目次

1. はじめに.....	1
2. 4つの動詞タイプの特徴.....	4
2.1. 移動の動詞 (Verbs of Displacement) Vdi.....	4
2.2. 位置の動詞 (Verbs of Posture) Vpo.....	5
2.3. 出現の動詞 (Verbs of Appearing) Vap.....	7
2.4. 配置の動詞 (Verbs of Placement) Vpl.....	8
2.5. 問題 I の考察.....	10
3. 配置の動詞 (Vpl) と共起する場所句の機能的な特殊性.....	12
3.1. 配置の動詞 (Vpl) と共起する場所句への問題提起.....	12
3.2. 下位範疇化素性と意味役割と構造.....	13
3.3. 場所句の機能に関する先行研究.....	17
3.4. 本章のまとめ.....	19
4. 限界性と制約条件.....	20
4.1. post-verbal 場所句の制約条件への問題提起.....	20
4.2. 場所句に関する制約条件.....	21
4.2.1. 限界性のテスト.....	21
4.2.2. 中国語への適用.....	22
4.2.3. 限界性を用いた配置の動詞と共起する場所句の制約条件.....	23
4.3. 他の動詞への適用.....	26
4.4. 場所句の制約条件に関する先行研究との比較.....	28
4.4.1. Li & Thompson (1981)、王 (1957) による制約条件.....	28
4.4.2. 中原 (2006)、范 (1982) による制約条件.....	29
4.5. 本章のまとめ.....	30
5. 今後の課題.....	32
6. 本論文の主張のまとめ.....	35
Appendix: Liu (2009).....	37
A.1. 動詞分類.....	37
A.2. 限界動詞 (Telic verb).....	38
A.3. 非限界動作動詞 (Atelic dynamic verb).....	40
A.4. 状態動詞 (Stative verb).....	41
A.5. Liu (2009) のまとめ.....	42
参考文献.....	43

## 1. はじめに

中国語における副詞類（副詞や副詞表現）は一般的に主語や主題のすぐ直後、かつ動詞の前（pre-verbal）にしか出現せず、動詞の後（post-verbal）は容認されない。

### (1) a. pre-verbal

wo zuotian kandao tianzhong laoshi.  
[NP1 我][ADV 昨天][V 看到][NP2 田中 老师]。<sup>1</sup> （時の副詞類）  
私 昨日 見た 田中 先生  
「私は昨日田中先生を見た。」

### b. post-verbal

\*wo kandao tianzhong laoshi zuotian.  
\*[NP1 我][V 看到][NP2 田中 老师][ADV 昨天]。  
私 見た 田中 先生 昨日

### (2) a. pre-verbal

ta jingchang chidao.  
[NP 他][ADV 经常][V 迟到]。（頻度の副詞類）  
彼 よく 遅刻する  
「彼はよく遅刻する。」

### b. post-verbal

\*ta chidao jingchang.  
\*[NP 他][V 迟到][ADV 经常]。  
彼 遅刻する よく

中国語における場所句は前置詞（介詞）‘在’を主要部とし、他の副詞類と同様に、基本的には pre-verbal 位置のみが容認され、post-verbal 位置は容認されない。

### (3) a. pre-verbal

ta zai shitang li chi fan.  
[NP1 他][PP 在 食堂 里][V 吃][NP2 饭]。  
彼 で 食堂 中 食べる ご飯  
「彼は食堂でご飯を食べる。」

---

<sup>1</sup> 本論文では、中国語の例文を基本的には簡体字で書いているが、先行研究において英語でのみ例文が書かれているものについては簡体字を当てはめ、繁体字で書いてあるものはそのまま繁体字で書いている。和訳やグロスの記載が先行研究にない場合は、筆者が和訳やグロスの記載を行った。

b. post-verbal

\*ta chi fan zai shitang li.  
 \*[NP1 他][V 吃][NP2 饭][PP 在 食堂 里]。  
 彼 食べる ご飯 で 食堂 中

(4) a. pre-verbal

ta zai yundongchang shang pao.  
 [NP 他][PP 在 运动场 上][V 跑]。  
 彼 で 運動場 上 走る  
 「彼は運動場で走る。」

b. post-verbal

\*ta pao zai yundongchang shang.  
 \*[NP 他][V 跑][PP 在 运动场 上]。  
 彼 走る で 運動場 で

ところが、場所句は post-verbal 位置が容認される場合もある<sup>2</sup>。

(5) a. pre-verbal

ta zai zhuozi shang tiao.  
 [NP 她/ 他][PP 在 桌子 上][V 跳]。  
 彼女/ 彼 で 机 上 ジャンプする  
 「彼女/ 彼は机の上でジャンプしている。」

[Li & Thompson 1981: 399, (29a)]

b. post-verbal

ta tiao zai zhuozi shang.  
 [NP 她/ 他][V 跳] [PP 在 桌子上]。  
 彼女/ 彼 ジャンプする に 机 上  
 「彼女/ 彼は机の上に（向かって）ジャンプした。」

[Li & Thompson 1981: 399, (29b)]

すると、(6) のような問題が浮上する。

<sup>2</sup> なお、中国語の場所句は pre-verbal 位置と post-verbal 位置の他に、以下のように主語の前 (pre-subject) にも出現し得るが、本論文では考察外とする。

(i) pre-subject

zai Beijing ta zhaodaole yige hao gongzuo.  
 [PP 在 北京], [NP1 他][V 找到了][NP2 一个 好 工作]。  
 で 北京 彼 見つけた 1つの 良い 仕事  
 「北京で、彼は1つの良い仕事を見つけた。」

(6) 問題 I :

なぜ場所句は pre-verbal 位置と post-verbal 位置の両方で容認される場合があるのか？

本論文では、(6) の問題 I を皮切りに、中国語における場所句の問題を考察していく。以下、2章では1つ目の問題、3章では2つ目の問題、4章では3つ目の問題に取り組む。さらに、5章では今後の課題を述べ、6章では本論文の主張をまとめる。

## 2. 4つの動詞タイプの特徴

Li & Thompson (1981) によると、ほとんどの動詞は pre-verbal 場所句を容認する。これは、ほぼどんな出来事や状態も場所を持ち得るからである。一方、post-verbal 場所句を容認するのは4つの動詞タイプに限られるとしている。本章ではまず、Li & Thompson (1981) による post-verbal 場所句と共起し得る4つの動詞タイプを紹介し、その後、問題 I に取り組む。

### 2.1. 移動の動詞 (Verbs of Displacement) Vdi

Li & Thompson (1981) は、主語 (自動詞の場合) または直接目的語 (他動詞の場合) のいずれかの局所的移動を含む動作動詞を移動の動詞 (Verbs of Displacement) と分類し、Vdi と呼んでいる。例えば、以下の (7) が Vdi の例として挙げられている。

#### (7) 移動の動詞 (Vdi) :

tiao	reng	tui	diao	bo	shuai
跳 (jump)	扔 (toss)	推 (push)	掉 (drop, fall)	播 (sprinkle)	摔
	dao	xia	die	liu	pa
	(fall, trip)	倒 (fall)	下 (drop)	跌 (fall)	流 (flow)
		爬			
	ma				
	(crawl)	抹 (spread, smear)			
tidao					
踢倒のように2つ目の要素に‘倒’を持つ結果動詞複合語 (resultative verb compound)					

[Li & Thompson 1981: 399, (28)]

Li & Thompson (1981) の主張を要約すると、Vdi と共起する場所句の機能は (8) のようになる。

#### (8) Vdi と共起する場所句の機能 :

pre-verbal 場所句は動作が起こった一般的な場所を指定するが、post-verbal 場所句は移動の結果としての主語 (自動詞の場合) または直接目的語 (他動詞の場合) の場所を指定する。

(9) の例文は、自動詞である Vdi と共起する pre-verbal 場所句と post-verbal 場所句の機能の違いを表している。

#### (9) a. Vdi, pre-verbal

ta	zai	zhuozi	shang	tiao.
[NP 她/他]	[PP 在 桌子 上]	[v 跳]		
彼女/彼	で	机	上	ジャンプする
「彼女/彼は机の上でジャンプしている。」				

[Li & Thompson 1981: 399, (29a)]

b. Vdi、post-verbal

ta tiao zai zhuozi shang.  
[NP 她/ 他][V 跳] [PP 在 桌子 上]。  
彼女/ 彼 ジャンプする に 机 上  
「彼女/ 彼は机の上に（向かって）ジャンプした。」

[Li & Thompson 1981: 399, (29b)]

(9a) の pre-verbal 場所句は‘跳’という動作が起こった一般的な場所を指定している。一方で、(9b) では‘跳’は主語の局所的移動につながるかもしれない動作であり、post-verbal 場所句は動作の結果としての主語の場所を指定する。

(10) は同じく pre-verbal 場所句と post-verbal 場所句の意味的な機能の違いを表している Vdi の例だが、動詞は他動詞 (resultative verb compound : 結果動詞複合語) である。

(10) a. Vdi、pre-verbal

wo zai shafa shang ba ta tuidaole.  
[NP1 我][PP 在 沙发 上][BA 把][NP2 她/ 他][V 推倒了]。  
私 で ソファ 上 彼女/ 彼 押し倒した  
「ソファの上で私は彼女/ 彼を押し倒した。」

[Li & Thompson 1981: 399, (30a)]

b. Vdi、post-verbal

wo ba ta tuidao zai shafa shang.  
[NP1 我][BA 把][NP2 她/ 他][V 推倒][PP 在 沙发 上]。  
私 彼女/ 彼 押し倒す に ソファ 上  
「私は彼女/ 彼をソファに押し倒した。」

[Li & Thompson 1981: 400, (30b)]

(10a) の pre-verbal 場所句は「彼女/ 彼を押し倒す」という動作の一般的な場所を意味するが、(10b) の post-verbal 場所句は (8) に一致し、直接目的語である「彼女/ 彼」が「押し倒す」という動作の結果としてソファに行き着くことを示している。

## 2.2. 位置の動詞 (Verbs of Posture) Vpo

Li & Thompson (1981) は、典型的には有生である存在の位置を描写する動詞を位置の動詞 (Verbs of Posture) と分類し、Vpo と呼んでいる。例えば、(11) が例として挙げられている。

(11) 位置の動詞 (Vpo) :

zhan shui pa dun fo ting  
站 (stand) 、 睡 (sleep) 、 趴 (crouch) 、 蹲 (squat) 、 浮 (float) 、 停  
zuo tang gui yi zhu  
(stop) 、 坐 (sit) 、 躺 (lie down) 、 跪 (kneel) 、 倚 (lean on) 、 住 (have  
piao  
residence) 、 漂 (float)

[Li & Thompson 1981: 401, (33)]

Li & Thompson (1981) の主張を要約すると、Vpo と共起する場所句は (12) のように一般化される。

(12) Vpo と共起する場所句の機能 :

pre-verbal 場所句と post-verbal 場所句はどちらも主語の存在する位置を指定し、両者の間に意味の違いはない。

(13)、(14) は Vpo と共起する場所句の機能を示す例文である。

(13) a. Vpo、pre-verbal

ta zai chuang shang shui.  
[NP 她/他][PP 在 床 上][V 睡]。  
彼女/彼 で ベッド 上 寝る  
「彼女/彼はベッドで寝ている。」

[Li & Thompson 1981: 401, (35a)]

b. Vpo、post-verbal

ta shui zai chuang shang.  
[NP 她/他][V 睡][PP 在 床 上]。  
彼女/彼 寝る で ベッド 上  
「彼女/彼はベッドで寝ている。」

[Li & Thompson 1981: 402, (35b)]

(14) a. Vpo、pre-verbal

ta zai wuyan xia zhanzhe.  
[NP 她/他][PP 在 屋檐 下][V 站着]。  
彼女/彼 で 軒 下 立っている  
「彼女/彼は軒の下に立っている。」

[Li & Thompson 1981: 401, (34a)]

b. Vpo、post-verbal

ta zhan zai wuyan xia.  
 [NP 她/他][V 站][PP 在 屋檐 下]。  
 彼女/彼 立つ で 軒 下  
 「彼女/彼は軒の下に立っている。」

[Li & Thompson 1981: 401, (34b)]

(13a)、(14a) の pre-verbal 場所句は出来事が発生した一般的な場所を指定し、(13b)、(14b) の post-verbal 場所句は主語が存在している場所を指定するので、(12) のとおり両者の間に意味の違いは生じていない。

### 2.3. 出現の動詞 (Verbs of Appearing) Vap

Li & Thompson (1981) は、主語の出現/消失を示す動詞を出現の動詞 (Verbs of Appearing) と分類し、Vap と呼んでいる。なお、Vap と Vpo は単に語彙的な意味が異なるだけであり、役割的には同様に振舞うとしている。例えば、以下の (15) が例として挙げられている。

(15) 出現の動詞 (Vap) :

fasheng	chuxian	(chu) sheng	shengzhang
发生 (happen, occur)、	出现 (appear)、	(出) 生 (be born)、	生长 (grow
zhangda	chansheng	si	xiaoshi
up)、	长大 (grow up)、	产生 (occur)、	死 (die)、
		消失 (disappear)	

[Li & Thompson 1981: 403, (39)]

Li & Thompson (1981) の主張を要約すると、Vap と共起する場所句は (16) のような機能を持つ。

(16) Vap と共起する場所句の機能 :

pre-verbal 場所句と post-verbal 場所句は、どちらも主語の出現/消失の場所を指定し、両者の間に意味の違いはない。

(17)、(18) は Vap と共起する場所句の機能を示す例文である。

(17) a. Vap、pre-verbal

neizhongshi keneng zai Shanghai fasheng.  
 [NP 那种事] [AUX 可能] [PP 在 上海] [V 发生]。  
 あのような事 かもしれない で 上海 起こる  
 「あのような出来事は上海で起こるかもしれない。」

[Li & Thompson 1981: 403, (40a)]

b. Vap、post-verbal

neizhongshi keneng fasheng zai Shanghai.  
 [NP 那种事] [AUX 可能] [V 发生] [PP 在 上海]。  
 あのような事 かもしれない 起こる で 上海  
 「あのような出来事は上海で起こるかもしれない。」

[Li & Thompson 1981: 403, (40b)]

(18) a. Vap、pre-verbal

ta zai wo de mianqian chuxian.  
 [NP 他] [PP 在 我 的 面前] [V 出现]。  
 彼 に 私 の 目の前 現れる  
 「彼は私の目の前に現れる/ 現れた。」

b. Vap、post-verbal

ta chuxian zai wo de mianqian.  
 [NP 他] [V 出现] [PP 在 我 的 面前]。  
 彼 現れる に 私 の 目の前  
 「彼は私の目の前に現れる/ 現れた。」

(17a)、(18a) の pre-verbal 場所句は出来事の発生した一般的な場所を指定し、(17b)、(18b) の post-verbal 場所句は主語の出現の場所を指定するので、確かに pre-verbal 場所句と post-verbal 場所句は同じ意味を持っている。

## 2.4. 配置の動詞 (Verbs of Placement) Vpl

Li & Thompson (1981) は、直接目的語をある位置に配置する動作動詞を配置の動詞 (Verbs of Placement) と分類し、Vpl と呼んでいる。なお、動作の着点を意味するという点で Vpl と Vdi には類似点があるが、相違点もあるとしている。すなわち、Vdi がある場所から別の場所への動きや移動を含む、つまり起点を意味的に含む一方で、Vpl はどこかに直接目的語を配置するがどこから動かし始めたかは示さない、つまり起点を意味的に含まない。例えば、以下の (19) が例として挙げられている。

(19) 配置の動詞 (Vpl) :

fang	zhong	hua	tu	ke
放 (put, place)	、种 (plant)	、画 (draw, paint)	、吐 (expectorate)	、刻
	sa	cang	xie	chao
	(carve, sculpt)	、撒 (spill)	、藏 (hide)	、写 (write)
	jianli			yin
	(print)	、建立 (establish)		

[Li & Thompson 1981: 404, (43)]

Li & Thompson (1981) の主張を要約すると、Vpl は (20) のように一般化される。

(20) Vpl と共起する場所句の機能：

pre-verbal 場所句は動作の一般的な場所と直接目的語の配置された場所のどちらも指定することができ、post-verbal 場所句は直接目的語が配置された場所を指定する。

(21)、(22) が考察されている。

(21) a. Vpl、pre-verbal

wo zai shujia shang fang zazhi.  
[NP1 我][PP 在 书架 上][V 放][NP2 杂志]。  
私 に 本棚 上 置く 雑誌  
「私は本棚の上に雑誌を置いた。」

[Li & Thompson 1981: 404, (44a)]

b. Vpl、post-verbal

wo ba zazhi fang zai shujia shang.  
[NP1 我][BA 把][NP2 杂志][V 放][PP 在 书架 上]。  
私 雑誌 置く に 本棚 上  
「私は本棚の上に雑誌を置いた。」

[Li & Thompson 1981: 405, (44b)]

(22) a. Vpl、pre-verbal

wo zai wo de benzi shang hua yige laohu.  
[NP1 我][PP 在 我的 本子上][V 画][NP2 一个 老虎]。  
私 に 私 の ノート 上 描く 一匹の 虎  
「私はノートに一匹の虎を描いた。」

[Li & Thompson 1981: 405, (46a)]

b. Vpl、post-verbal

wo ba yige laohu hua zai wo de benzi shang.  
[NP1 我][BA 把][NP2 一个 老虎][V 画][PP 在 我的 本子上]。  
私 一匹の 虎 描く に 私 の ノート 上  
「私はノートに一匹の虎を描いた。」

[Li & Thompson 1981: 405, (46b)]

(21)、(22) の a と b では pre-verbal 場所句と post-verbal 場所句がどちらも直接目的語が置かれた場所を指定している。つまり、Li & Thompson (1981) によると、Vpl の pre-verbal 場所句

は唯一、出来事が起こった一般的な場所を表さなくてもよいが、その代わりに直接目的語が動作の結果としてどこに終結するかを指定することができる。そしてここで重要なのは、pre-verbal 場所句は (23) のように動作の一般的な場所を指定することもできるが、指定しないといけないわけではないという点であると述べている。

(23) Vpl、pre-verbal

wo zai shufang li hua yige laohu.  
[NP1 我][PP 在 书房 里] [V 画] [NP2 一个 老虎]。  
私 で 勉強部屋 中 描く 一匹の 虎  
「私は勉強部屋で一匹の虎を描いた。」

[Li & Thompson 1981: 406, (47) 改変]

(22a) と (23) を比べると、前者の pre-verbal 場所句（‘在我的本子上’）は直接目的語‘老虎’が「描く」という動作によって配置された場所を指定する。一方で、後者の pre-verbal 場所句（‘在书房里’）は、単に「描く」という動作が起こった場所を指定する。

## 2.5. 問題 I の考察

2.4 節まで述べてきたように、場所句は pre-verbal 位置と post-verbal 位置の 2 か所で容認される場合が存在するが、それぞれの機能には違いがある。つまり、場所句は大きく分けると、「出来事が起こった一般的な場所を指定する」という機能と「動作の結果としての主語または直接目的語の場所を指定する」という機能を持ち得る。本論文ではこれらの機能の違いにより、前者の機能を持つ場所句を「付加詞」、後者の機能を持つ場所句を「補語」とする。これらの違いを考えると、post-verbal 場所句も容認し得る 4 つの動詞は「動作動詞 (A)」と「結果状態を指定する動詞 (R)」の 2 つに分けられる。(A) と共起する場所句は、「出来事が起こった一般的な場所を指定する」という機能を持つ付加詞であり、(R) と共起する場所句は「動作の結果としての主語または直接目的語の場所を指定する」という機能を持つ補語である。よって、(6) の問題 I に対する解答として (24) を主張する。

(6) 問題 I :

なぜ場所句は pre-verbal 位置と post-verbal 位置の両方で容認される場合があるのか？

(24) 主張 I (i) :

Vdi、Vpo、Vap、Vpl はそれぞれ動作動詞 (A) になる場合と結果状態を指定する動詞 (R) になる場合があり、(A) と共起する場所句は付加詞、(R) と共起する場所句は補語である。

主張 I (ii) :

post-verbal 位置に現れる場所句は補語である。

しかし、2.4 節で述べた **Vpl** に着目すると、**Vdi**、**Vpo**、**Vap** とは異なる特徴があることが分かる。次章では **Vpl** がなぜ特殊なのかを述べた上で、その特殊性から生じる問題について考察していく。

### 3. 配置の動詞 (Vpl) と共起する場所句の機能的な特殊性

#### 3.1. 配置の動詞 (Vpl) と共起する場所句への問題提起

post-verbal 場所句と共起し得る4つの動詞タイプは、機能に着目すると (25) のような Vdi、Vpo、Vap と (20) のような Vpl の大きく2つに分けられる。

(25) Vdi、Vpo、Vap と共起する場所句の機能：

pre-verbal 場所句は出来事が発生した一般的な場所を指定し、post-verbal 場所句は動作の結果としての主語または直接目的語の場所を指定する。

(20) Vpl と共起する場所句の機能：

pre-verbal 場所句は動作の一般的な場所と直接目的語の配置された場所のどちらも指定することができ、post-verbal 場所句は直接目的語が配置された場所を指定する。

Vdi、Vpo、Vap の場合、pre-verbal 位置に現れる場所句は付加詞であり、post-verbal 位置に現れる場所句は補語である。しかし、Vpl のみ、pre-verbal 場所句が2つの異なる機能を持っている。すなわち、pre-verbal 場所句と post-verbal 場所句が同じ機能を持つ場合があるということである。具体的に (26)、(27) の例文を見ると、Vpl の機能の特殊性が分かる。(26) は pre-verbal 場所句が2つの機能を持っていることを示している。

(26) a. Vpl、pre-verbal

wo zai jiaoshi li huale jige yuanquan.  
[NP1 我][PP 在 教室 里][V 画了][NP2 几个 圆圈]。  
私 で 教室 中 描いた いくつかの 円  
「私は教室でいくつかの円を描いた。」

b. Vpl、pre-verbal

wo zai bijiben shang huale jige yuanquan.  
[NP1 我][PP 在 笔记本 上] [V 画了][NP2 几个 圆圈]。  
私 に ノート 上 描いた いくつかの 円  
「私はノートにいくつかの円を描いた。」

(26a) の pre-verbal 場所句‘在教室里’は出来事が起こった一般的な場所を指定するが、(26b) の pre-verbal 場所句‘在笔记本上’は「描く」という動作の結果としての直接目的語の配置された場所を指定している。

(27) は pre-verbal 場所句と post-verbal 場所句が同じ機能を持っている場合を示している。

(27) a. Vpl、pre-verbal

wo zai bijiben shang huale jige yuanquan.  
[NP1 我][PP 在 笔记本 上] [V 画了][NP2 几个 圆圈]。  
私 に ノート 上 描いた いくつかの 円  
「私はノートにいくつかの円を描いた。」

b. Vpl、post-verbal

wo huale jige yuanquan zai bijiben shang.  
[NP1 我] [V 画了][NP2 几个 圆圈] [PP 在 笔记本 上]。  
私 描いた いくつかの 円 に ノート 上  
「私はノートにいくつかの円を描いた。」

(27a) の pre-verbal 場所句と (27b) の post-verbal 場所句はどちらも「描く」という動作の結果として直接目的語が配置された場所を指定している。

つまり、Vdi、Vpo、Vap と同じように、Vpl も単純に pre-verbal 位置に現れる場所句は付加詞であり、post-verbal 位置に現れる場所句は補語であると考えすることはできない。なぜなら、pre-verbal 場所句が 2 つの機能を持つ原因、すなわち pre-verbal 場所句と post-verbal 場所句が同じ機能を持つ原因が解決できなくなるからである。よって、Vpl の特殊性について、(28) のような問題を挙げる。

(28) 問題Ⅱ：

なぜ配置の動詞 (Vpl) の場合、pre-verbal 場所句でも動作の結果としての直接目的語の場所を指定できるのか？

本章では、(28) の問題Ⅱに取り組む。3.2 節では本論文における主張を述べ、3.3 節では先行研究との比較を行う。

### 3.2. 下位範疇化素性と意味役割と構造

本論文では (28) の問題Ⅱを考察するにあたり、下位範疇化素性と意味役割、構造に着目する。以下、例として Vpl である‘写’を取り上げ、Vpl と共起する場所句の下位範疇化素性と意味役割、構造を検証する。

(29)、(30) の例文は 2 章で取り上げた、Vpl が単なる動作を描写する動作動詞 (A) となる‘写’を持つ文である。

(29) 動作動詞

ta jingjingde xiele jige zi.  
[NP1 他][ADV 静静地] [V 写了][NP2 几个 字]。  
彼 静かに 書いた いくつかの 字  
「彼は静かにいくつかの字を書いた。」

(30) a. 動作動詞、pre-verbal 場所句

ta zai jiaoshi li xiele jige zi.  
 [NP1 他][PP 在 教室 里][V 写了][NP2 几个 字]。  
 彼 で 教室 中 書いた いくつかの 字  
 「彼は教室でいくつかの字を書いた。」

b. 動作動詞、post-verbal 場所句

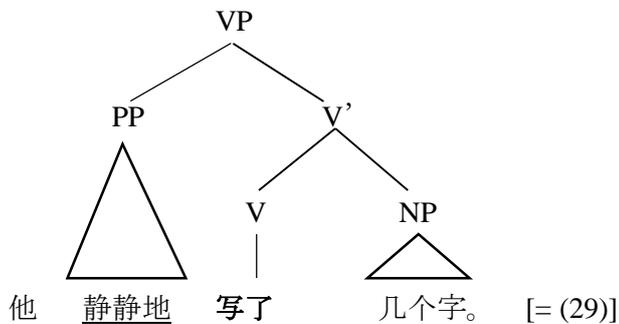
\*ta xiele jige zi zai jiaoshi li.  
 \*[NP1 他][V 写了][NP2 几个 字][PP 在 教室 里]。  
 彼 書いた いくつかの 字 で 教室 中

Vpl (A) である‘写’は下位範疇化素性に Agent と Theme を取る。(29) の‘静静地’は様態の副詞 (manner adverb) であり、どのようにして動詞句の動作が行われたかを述べている。(30a) の‘在教室里’は出来事の起こった一般的な場所を指定する pre-verbal 場所句である。(29) と (30) の動詞の下位範疇化素性及びその意味役割は (31)、構造は (32) と (33) のようになっている。

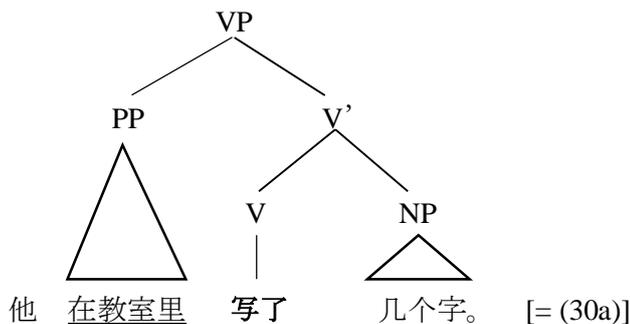
(31) 動作動詞：

写, V, [NP (Agent) — NP (Theme)]

(32) 動作動詞



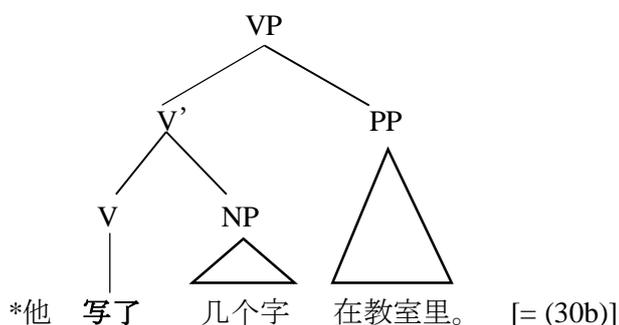
(33) 動作動詞、pre-verbal 場所句



これまで議論されてきたように、中国語における多くの動詞は出来事が起こった一般的な場所を示す pre-verbal 場所句 ( (30a) の ‘在教室里’ など) によって修飾され得る。動詞句は場所句によって修飾される可能性を持つが、(29) のように必ず修飾されなければならないわけではないので、(30a) の pre-verbal 場所句は付加詞である。よって、Vpl(A) と共起する、出来事が起こった一般的な場所を指定するという機能を持つ場所句は付加詞であると主張する。

なお、(30b) のように、Vpl(A) と付加詞である post-verbal 場所句は共起できない。その構造は (34) のようになる。

(34) 動作動詞、post-verbal 場所句



"Adverbs in Chinese typically occur after the subject or topic and before the predicate. The only possible postverbal adverbials are used to signal frequency or duration." [Li & Thompson 1981: 320] (中国語における副詞は典型的には主語または主題の後かつ述語の前に起こる。唯一の可能な post-verbal 副詞類は頻度または持続を示すために使われる。) という Li & Thompson (1981) の記述にあるように、(30b) の Vpl(A) と共起する post-verbal 場所句は典型的には容認されない。

次に、以下の (35) は Vpl が結果状態を指定する動詞 (R) となる ‘写’ を持つ。

(35) a. 結果状態を指定する動詞、pre-verbal 場所句

ta zai heiban shang xiele jige zi.  
 [NP1 他][PP 在 黑板 上][V 写了][NP2 几个 字]。  
 彼 に 黑板 上 書いた いくつかの 字  
 「彼は黑板にいくつかの字を書いた。」

b. 結果状態を指定する動詞、post-verbal 場所句

ta xiele jige zi zai heiban shang.  
 [NP1 他][V 写了][NP2 几个 字][PP 在 黑板 上]。  
 彼 書いた いくつかの 字 に 黑板 上  
 「彼は黑板にいくつかの字を書いた。」

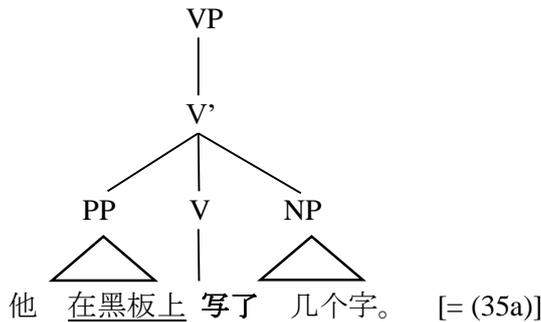
(35a) は一見、(30a) と同じ Vpl と共起する pre-verbal 場所句を有するように見えるが、(35a)

の動詞は「黑板に字が書かれた」ことを描写する Vpl(R) であり、下位範疇化素性に Agent と Theme、Locative を取る。(35b) は同様の意味を持つ、post-verbal に場所句が現れる文である。(35) の下位範疇化素性及びその意味役割は (36)、構造は (37) のようになる。

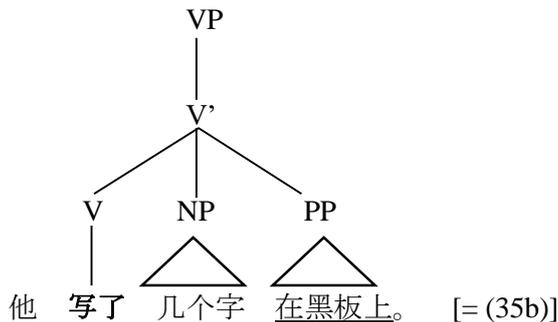
(36) 結果状態を指定する動詞：

写, V, [NP (Agent) — NP (Theme) — PP (Locative)]

(37) a. 結果状態を指定する動詞、pre-verbal 場所句



b. 結果状態を指定する動詞、post-verbal 場所句



(30) の pre-verbal 場所句（‘在教室里’）とは異なり、(35a) の pre-verbal 場所句（‘在黑板上’）は動詞‘写’によって下位範疇化されている。つまり、(35a) の pre-verbal 場所句は補語である。その機能についても‘在黑板上’は動詞句の動作が行われた場所を指定するのではなく、直接目的語が動作の結果配置された場所を指定する。(35b) の post-verbal 場所句も同様の意味役割と構造、機能を持つので補語である。

このように Vpl(R) と共起する場所句は pre-verbal と post-verbal のどちらの位置に現れても補語であるとする、以下の2つの例文が容認されることも説明できる。

(38) a. 結果状態を指定する動詞、補語である場所句は pre-verbal 位置

ta zai jiaoshi li zai heiban shang xiele jige zi.  
 [NP1 他][PP 在 教室 里][PP 在 黑板 上][V 写了][NP2 几个 字].  
 彼 で 教室 中 に 黑板 上 書いた いくつかの 字  
 「彼は教室で黑板にいくつかの字を書いた。」

- b. 結果状態を指定する動詞、補語である場所句は post-verbal 位置

ta zai jiaoshi li xiele jige zi zai heiban shang.  
[NP1 他][PP 在 教室 里][V 写了][NP2 几个 字][PP 在 黑板 上]。  
彼 で 教室 中 書いた いくつかの 字 に 黑板 上  
「彼は教室で黑板にいくつかの字を書いた。」

補語であると考えられる場所句‘在黑板上’は、(38a)においては pre-verbal 位置に、(38b)においては post-verbal 位置に現れているが、どちらも付加詞である pre-verbal 場所句‘在教室里’と共起可能である。よって、Vpl (R) と共起する、直接目的語が動作の結果配置された場所を指定するという機能を持つ場所句は補語であると主張する。

Vpl の特殊性に関する本節の議論をまとめた主張として (39) を挙げる。

### (39) 主張Ⅱ :

Vpl と共起する場所句は以下のようになる。

Vpl (A) と共起し付加詞となる場合は pre-verbal 位置にしか出現しないが

Vpl (R) と共起し補語となる場合は pre-verbal 位置と post-verbal 位置に出現し得る。

次節では、場所句の機能に関する先行研究を紹介する。

### 3.3. 場所句の機能に関する先行研究

本節では、場所句の機能に関する先行研究の紹介をするとともに、本論文の主張との比較を行う。

Li & Thompson (1981) によると、中国語文法において pre-verbal 場所句は一般的な場所の意味があり、共起できる動詞に関して基本的に制約を受けない。この場所句は“状語”（副詞類）と呼ばれているとしている。Li & Thompson (1981) における副詞類は、本論文における付加詞と同義とする。一方、ある種類の動詞で制限がある直接目的語と同様に、post-verbal 場所句にも制限があり、“补语”（補語）と指定されていると述べている。Li & Thompson (1981) は、そのうえで Vpl の場合のみ pre-verbal 場所句が動作の一般的な場所と直接目的語の配置された場所のどちらも指定できると述べている。しかし、Li & Thompson (1981) はどのような場合に動作の一般的な場所を指定し、どのような場合に直接目的語の配置された場所を指定するかについて言及していない。すなわち、直接目的語の配置された場所を指定するときの pre-verbal 場所句が副詞類と補語のどちらになるかを述べていないということになる。前述のとおり、これらの文法的機能の違いも Vpl の特殊性を論じるにあたり重要となるので、Li & Thompson (1981) は記述不足である。これに対して本論文の主張は、pre-verbal 場所句がどのような場合に付加詞になり、どのような場合に補語になるかを明らかにしている。

Vpl と共起する場所句についてだけではなく場所句全体についてだが、中原 (2006) においても構造と機能について (40) が挙げられている。

(40) 《“在” + 場所詞》構造の 3 つの形式の相関

	構造上の異同	位置上の異同	文法的機能上の異同
形式 (1)	外層構造	文中主語の前	文の状語
形式 (2)	内層構造	文中動詞の前	文中動詞の状語
形式 (3)	内層構造	文中動詞の後ろ	文中動詞の補語

[中原 2006: 135]

(形式 (1) = pre-subject、形式 (2) = pre-verbal、形式 (3) = post-verbal を指す。)

(40) からは pre-verbal 場所句の中で文法的機能などの違いがあるとは読み取れず、中原 (2006) の文中にもそのような記述はない。Vpl について述べられていないのは単に考察外なのかもしれないが、分析として不足があることは問題として挙げられる。

post-verbal 場所句の機能についての先行研究に Liu (2009) がある。Liu (2009) は限界 (telicity) を用いることで post-verbal 場所句と共起し得る動詞を分類している。本論文では限界の概念を 4 章で用いるが、Liu (2009) の動詞分類については問題点があるので特に取り上げない。ここでは、Liu (2009) の概略のみ紹介する。

Liu (2009) では、以下の 2 つの問題に取り組んでいる。

(41) どの動詞が post-verbal 場所句と共起できるのか？

(42) post-verbal 場所句はどの環境で出現でき、何の機能を果たしているのか？

Liu (2009) 以前の先行研究では、動詞の分類を用いて post-verbal 場所句の機能を説明していない。Liu (2009) は、post-verbal 場所句を取ることができる動詞を、限界動詞 (telic verb)、非限界動作動詞 (atelic dynamic verb)、状態動詞 (stative verb) に分類し、‘在’の分布と機能をアスペクトのアプローチをもって取り組んでいる点で先行研究と異なる。(41)、(42) の問題に対して Liu (2009) は以下のような主張を述べている。

(43) Liu (2009) の主張：

"The postverbal *zài* phrase has different meanings depending on whether the verbs are dynamic or stative, telic or atelic. For telic verbs, it specifies a locative boundary of the events; for atelic dynamic verbs, it adds a boundary to the events and turns the predicate into a telic predicate; finally, for stative verbs, it does not provide an event boundary, but only specifies the location of a state."

[Liu 2009: 32]

さらに、Liu (2009) は先行研究として Li & Thompson (1981) の「post-verbal 場所句は移動、位置、出現・消失、そして配置の 4 つの動詞タイプと共起し、一方で、全ての動詞は pre-verbal 場所句と共起し得る」という主張にも言及し、post-verbal 場所句の分布はこの 4 つよりも広いのではないかと述べ、12 の分類を出している。ところが、先述したように Liu (2009) は場所句の機能を論じる際にはそれらの動詞分類を大きく 3 つにまとめており、post-verbal 場所句と共起し得る動詞を 12 に分けた意味を特に見出せなくなっている。このように、Liu (2009) の動詞分類に関する主張は問題があるものの、本論文における主旨には関係しないので、これ以上の考察の対象にはしないこととする。Liu (2009) は、限界という概念を場所句の議論に用いるために導入するには有用だが、特殊な働きをする Vpl を限界動詞のうちの 1 つとしており、その特殊性については何も言及していないという点で問題がある。

### 3.4. 本章のまとめ

本章では、Vpl と共起する場所句について、(28) の問題Ⅱに取り組んだ。

#### (28) 問題Ⅱ：

なぜ配置の動詞 (Vpl) の場合、pre-verbal 場所句でも動作の結果としての直接目的語の場所を指定できるのか？

そして、(39) の主張をした。

#### (39) 主張Ⅱ：

Vpl と共起する場所句は以下ようになる。

Vpl (A) と共起し付加詞となる場合は pre-verbal 位置にしか出現しないが

Vpl (R) と共起し補語となる場合は pre-verbal 位置と post-verbal 位置に出現し得る。

ところが、(R) と共起する場所句を含む文にも容認できるものと容認できないものがある。次章ではこのような場所句に関する容認性の違い、すなわち制約条件について取り組む。

## 4. 限界性と制約条件

### 4.1. post-verbal 場所句の制約条件への問題提起

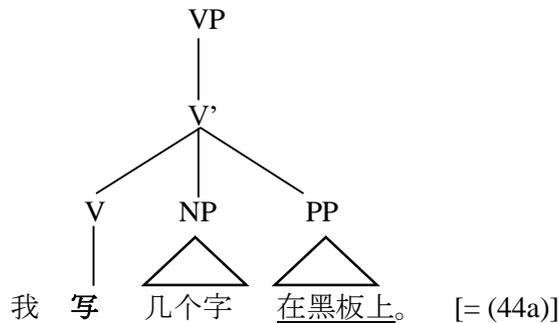
3章では、Vpl (R) と共起する場所句が補語になり、post-verbal 位置に出現するものは補語であると述べたが、必ずしもすべての post-verbal 場所句が容認されるわけではない。例えば、(44a) は容認されるのに対して、(44b) は容認されない。

(44) a. Vpl (R)、post-verbal 場所句  
 wo xie jige zi zai heiban shang.  
 [NP1 我] [V 写] [NP2 几个 字] [PP 在 黑板 上]。  
 私 書く いくつかの 字 に 黑板 上  
 「私はいくつかの字を黑板に書く。」

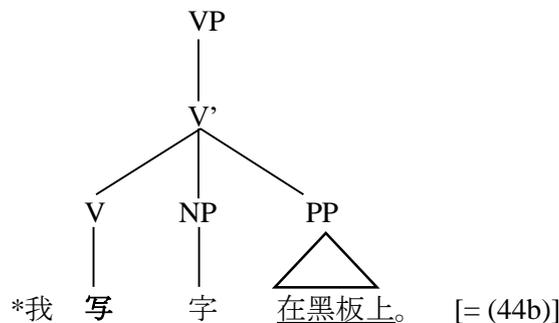
b. Vpl (R)、post-verbal 場所句  
 \*wo xie zi zai heiban shang.  
 \*[NP1 我] [V 写] [NP2 字] [PP 在 黑板 上]。  
 私 書く 字 に 黑板 上

(44) の下位範疇化素性と意味役割、構造を考察してみると、(45) のようになる。

(45) a. 写, V, [NP (Agent) — NP (Theme) — PP (Locative)]



b. 写, V, [NP (Agent) — NP (Theme) — PP (Locative)]



(44) はどちらも下位範疇化素性に Agent と Theme、Locative を取る Vpl (R) であり、post-

verbal 場所句は補語である。つまり、3章のように下位範疇化素性と意味役割、構造を考察するだけではなぜ同じ構造で容認できるものと容認できないものがあるかを説明できない。それぞれの例文の違いとしては、単純目的語を含む動詞句と共起する post-verbal 場所句は容認されないが、数量詞を含む動詞句と共起する post-verbal 場所句は容認されることが挙げられる。そこで、本章では以下の問題に取り組むこととする。

(46) 問題Ⅲ：

なぜ単純目的語を含む動詞句と共起するとき、post-verbal 場所句は容認されないのか？

本章では Vpl である‘写’を例に挙げて議論し、その後、他の動詞にも適用してみる。(46)の問題Ⅲに取り組むにあたり、Liu (2003, 2009) でも言及されている限界 (telicity) の概念を用いる。

#### 4.2. 場所句に関する制約条件

本節ではまず、一般的に有用であるとされている英語における限界性のテストを中国語に適用し、数量詞の有無が動詞句の限界性に関わることを明らかにする。そのうえで、限界性を用いることで post-verbal 場所句の制約条件について論じる。

##### 4.2.1. 限界性のテスト

Dowty (1979: 56) によると、英語の動詞句が限界を持つかどうかを判断する一般的な方法の1つとして、(47)のように "in an hour (1時間以内で)" (a time-frame adverbial: 期限の副詞類) が適用され得るかを調べる方法がある。一方で、動詞句が非限界かどうかを判断する一般的な方法としては (48) のように "for an hour (1時間の間)" (a time-span adverbial: 期間の副詞類) が適用され得るかを調べる方法があるとしている。これは期限/期間のテストと呼ばれ、このテストによると "built a house" は限界であるが、 "built houses" は非限界である。

(47) a. John built a house in a month.

ジョンは1か月以内で一軒の家を建てた。

b. \*John built a house for a month.

(47a) は期限の副詞類 "in a month" が適用されるため、 "built a house" は限界を持つ。

(48) a. \*John built houses in a month.

b. John built houses for a month.

ジョンは1か月間、家を建てた。

(48b) は期間の副詞類 "for a month" が適用されるため、"built houses" は限界を持たない(非限界である)。

#### 4.2.2. 中国語への適用

本節では、同様の期限/ 期間のテストを用いることで、中国語における‘写几个字 (いくつかの字を書く)’ / ‘写三十个字 (30 字を書く)’ などの数量詞を含む動詞句は限界動詞句、‘写字 (字を書く)’ などの単純目的語を含む動詞句は非限界動詞句であることを示していく。期限/ 期間のテストによると、限界動詞句は‘一分钟内 (1 分以内で)’ といった期限の副詞類と相性が良い一方で、非限界動詞句は‘三十分钟 (30 分の間)’ のような期間の副詞類と相性が良い。

##### (49) a. 期限の副詞類

ta keyi zai yifenzhong nei xie sanshige zi.  
 [NP1 他][AUX 可以][ADV 在 一分钟 内][V 写][NP2 三十个 字]。  
 彼 できる で 1 分間 以内 書く 30 個 字  
 「彼は 1 分以内で 30 字を書くことができる。」

##### b. 期限の副詞類

\*ta keyi zai yifenzhong nei xie zi.  
 \*[NP1 他][AUX 可以][ADV 在 一分钟 内][V 写][NP2 字]。  
 彼 できる で 1 分間 以内 書く 字

‘一分钟内’ といった期限の副詞類を用いると、(49a) の動詞句‘写三十个字’ は共起され得るので限界動詞句になり、(49b) の動詞句‘写字’ は共起されないので、非限界動詞句になる。次に、(50) のように、‘三十分钟’ といった期間の副詞類を適用してみる<sup>3</sup>。

<sup>3</sup> Li & Thompson (1981) は、NP2 の後にもう 1 度動詞が出現するという文法プロセスを動詞コピー (verb copying) と呼んでいる ( (50a)、(50b) に例示)。他動詞が‘三十分钟 (30 分の間)’ といった量を表す副詞類によって後続されるとき、その動詞は直接目的語の後に‘転写’される。これは (i-a) が容認される一方で、(i-b) が容認されないことによって示される。

##### (i) a. 動詞コピー

ta chi fan chile sanshifenzhong.  
 [NP1 他][V 吃][NP2 饭][V 吃了][ADV 三十分钟]。  
 彼 食べる ご飯 食べた 30 分間  
 「彼はご飯を 30 分間食べた。」

##### b. 動詞コピーなし

\*ta chi fan le sanshifenzhong.  
 \*[NP1 他][V 吃][NP2 饭][PRF 了][ADV 三十分钟]。  
 彼 食べる ご飯 へた 30 分間

(50) a. 期間の副詞類

\*ta jingjingde xie sanshige zi xiele sanshifenzhong.  
\*[NP1 他][ADV 静静地][V 写][NP2 三十个 字][V 写了][ADV 三十分钟]。  
彼 静かに 書く 30個 字 書いた 30分間

b. 期間の副詞類

ta jingjingde xie zi xiele sanshifenzhong.  
[NP1 他][ADV 静静地][V 写][NP2 字][V 写了][ADV 三十分钟]。  
彼 静かに 書く 字 書いた 30分間  
「彼は30分間、静かに字を書いた。」

(50a) の動詞句‘写三十个字’は期間の副詞類と共起されないので限界動詞句となり、(50b) の動詞句‘写字’は期間の副詞類と共起され得るので非限界動詞句になる。

動詞句‘写三十个字 (30字を書く)’と‘写字 (字を書く)’の間の限界性の違いについて支持する別の要因は、Li & Thompson (1981) でも述べられている持続 (durative) のアスペクトマーカ ‘着’ との相性である。Li & Thompson (1981) によると、中国語における持続のアスペクトマーカ ‘着’ は、継続または持続している現象や出来事を示すために使われる。限界動詞 (限界動詞句) は、明確な終結点またはアスペクト的な限界を持つという性質上、継続または持続している現象や出来事を表せない。そのため、限界動詞 (限界動詞句) は持続のマーカ ‘着’ と共起できない。それぞれの動詞句に持続のマーカ ‘着’ をつけると、(51) のようになる。

(51) a. 持続のマーカ ‘着’

\*ta zai jiaoshi jingjingde xiezhe sanshige zi.  
\*[NP1 他][PP 在 教室][ADV 静静地][V 写着] [NP2 三十个 字]。  
彼 で 教室 静かに 書いている 30個 字

b. 持続のマーカ ‘着’

ta zai jiaoshi jingjingde xiezhe zi.  
[NP1 他][PP 在 教室][ADV 静静地][V 写着] [NP2 字]。  
彼 で 教室 静かに 書いている 字  
「彼は教室で静かに字を書いている。」

(51a) の動詞句‘写三十个字 (30字を書く)’は持続のマーカ ‘着’ と共起できないので限界動詞句、(51b) の動詞句‘写字 (字を書く)’は持続のマーカ ‘着’ と共起できるので非限界動詞句である。

#### 4.2.3. 限界性を用いた配置の動詞と共起する場所句の制約条件

前節までの限界性のテストにより、動詞句の限界性については (52) のようになっている。

- (52) a. 限界動詞句：動詞+目的語（数量詞+名詞）  
 写三十个字（30 字を書く）、写几个字（いくつかの字を書く）
- b. 非限界動詞句：動詞+目的語（裸名詞）  
 写字（字を書く）

3 章で取り上げた Liu (2009) は、post-verbal 場所句を取り得る動詞を限界動作動詞 (telic dynamic verb)、非限界動作動詞 (atelic dynamic verb)、状態動詞 (stative verb) に分類しており、Vpl は限界動詞の内の 1 つであるとしていると述べた。そして、限界動詞と共起する post-verbal 場所句が以下のような機能を持つと述べており、本論文でもこの主張を用いる。

(53) Liu (2009) における限界動詞と共起する post-verbal 場所句の機能：

"...it [locative phrase] makes specific the boundary of an event which has an inherent but unspecified temporal boundary."

[Liu 2009: 12]

(場所句は、内在するが示されていない一時的な限界を持つ出来事の限界を明確にする)

よって、post-verbal 場所句について (54) のような制約が成り立つと予測を立てる。

(54) 予測：

post-verbal 場所句は限界動詞と共起するとき、「内在する限界を明確にする」という機能を持っているので、限界動詞句である‘写三十个字（30 字を書く）’ / ‘写几个字（いくつかの字を書く）’ と共起できるが、非限界動詞句‘写字（字を書く）’ とは共起できない。

ここで、(44) のミニマルペアを用いて実際にそれぞれの容認性が (54) の予測のとおりになっているかを見ていく。

(44) a. post-verbal、限界動詞句

wo xie jige zi zai heiban shang.  
 [NP1 我] [V 写] [NP2 几个 字] [PP 在 黑板 上]。  
 私 書く いくつかの 字 に 黑板 上  
 「私はいくつかの字を黒板に書く。」

b. post-verbal、非限界動詞句

\*wo xie zi zai heiban shang.  
 \*[NP1 我] [V 写] [NP2 字] [PP 在 黑板 上]。  
 私 書く 字 に 黑板 上

(44a) は限界動詞句である‘写几个字（いくつかの字を書く）’を含むので、内在する限界がある。post-verbal 場所句の機能の (53) を適用すると、限界を明確にすることができるので容認される。一方、非限界動詞句である‘写字（字を書く）’を含む (44b) は内在する限界がない。つまり、post-verbal 場所句の機能の (53) を適用しようとしても明確にする限界が存在しないので、容認されない。よって、(54) の予測のとおり、限界動詞句と共起する post-verbal 場所句は容認されるが、非限界動詞句と共起する post-verbal 場所句は容認されないという結果となっている。本論文では限界性の概念を用いて (55) のような post-verbal 場所句に関する制約条件を主張し、その根拠を (56) とする。

(55) 主張Ⅲ（post-verbal 場所句に関する制約条件）：

post-verbal 場所句は数量詞を含むことで限界を持つ動詞句と共起されなければ容認されない。

(56) 主張Ⅲの根拠：

数量詞を含む動詞句は「限界」、単純目的語を含む動詞句は「非限界」を持ち、post-verbal 場所句の「内在する限界を明確にする」という機能を適用できない単純目的語を含む動詞句と共起する post-verbal 場所句は容認されないため。

ここで、(54) の予測を同じように補語となる pre-verbal 場所句にも適用してみる。

(57) a. pre-verbal、限界動詞句

wo zai heiban shang xie jige zi.  
 [NP1 我] [PP 在 黑板 上] [V 写] [NP2 几个 字]。  
 私 に 黑板 上 書く いくつかの 字  
 「私は黑板にいくつかの字を書く。」

b. pre-verbal、非限界動詞句

wo zai heiban shang xie zi.  
 [NP1 我] [PP 在 黑板 上] [V 写] [NP2 字]。  
 私 に 黑板 上 書く 字  
 「私は黑板に字を書く。」

(57a) は限界動詞句を含むので post-verbal 位置と同様に容認される。一方で、(57b) は非限界動詞句を含むが post-verbal 位置とは異なり容認される。つまり、(54) の予測は補語となる

pre-verbal 場所句には適用されない。しかしながら、現状、なぜ同じ機能を持つ pre-verbal 場所句に適用されないかは分かっていない。

#### 4.3. 他の動詞への適用

なお、(46) の問題Ⅲは Vpl のみならず、他動詞に生じる問題である。Vdi は (58) のように他動詞（結果動詞複合語）の場合があるので、Vpl と同様に (46) の問題Ⅲが関与する。実際、同じような制限が見られる。

##### (58) a. Vdi, post-verbal

ta diule yixie lingqian zai zhuozi shang.  
 [NP1 他][V 丢了][NP2 一些 零钱][PP 在 桌子 上]。  
 彼 落とした いくつかの 小銭 に 机 上  
 「彼は机の上にいくつかの小銭を落とした。」

##### b. Vdi, post-verbal

\*ta diule lingqian zai zhuozi shang.  
 \*[NP1 他][V 丢了][NP2 零钱][PP 在 桌子 上]。  
 彼 落とした 小銭 に 机 上

(58a) の動詞句 ‘丢了一些零钱’ は数量詞を含むことで限界を持つ限界動詞句であり、(58b) の動詞句 ‘丢了零钱’ は単純目的語を含む非限界動詞句である。このように、制約条件である (55) は、Vdi にも有効である。

(55) の検証のために、Vpl、Vdi の例文をさらに 1 つずつ挙げる。(59) は Vpl の例である。

##### (59) a. Vpl, post-verbal

wo zhongle jike juhuar zai yuanzi li.  
 [NP1 我][V 种了][NP2 几棵 菊花儿][PP 在 院子 里]。  
 私 植えた いくつかの 菊の花 に 庭 中  
 「庭に私はいくつかの菊の花を植えた。」

[中原 2006: 129, [1-4]]

##### b. Vpl, post-verbal

\*wo zhongle juhuar zai yuanzi li.  
 \*[NP1 我][V 种了][NP2 菊花儿][PP 在 院子 里]。  
 私 植えた 菊の花 に 庭 中

[中原 2006: 129]

(59a) の動詞句 ‘种了几棵菊花儿’ は数量詞を含むことで限界を持つ限界動詞句、(59b) の

動詞句‘種了菊花儿’は単純目的語を含む非限界動詞句である。これまでの予測のとおり、制約条件 (55) を適用すると、(59a) は容認され、(59b) は容認されないので、(55) に反しない。

次に、(60) は Vdi の例である。

(60) a. Vdi, post-verbal

wo bole yixie zhongzi zai huayuan li.  
 [NP1 我][V 播了][NP2 一些 种子][PP 在 花园 里]。  
 私 蒔いた いくつかの 種 に 庭園 中  
 「私は庭園にいくつかの種を蒔いた。」

b. Vdi, post-verbal

\*wo bole zhongzi zai huayuan li.  
 \*[NP1 我][V 播了][NP2 种子][PP 在 花园 里]。  
 私 蒔いた 種 に 庭園 中

(60a) の動詞句‘播了一些种子’は限界動詞句、(60b) の動詞句‘播了种子’は非限界動詞句である。容認性を見ると、(60a) は容認され、(60b) は容認されないので、(55) のとおりになっている。

Vpo、Vap はそもそも自動詞であり、直接目的語を取らないので (46) の問題Ⅲは関与しない。(61) は Vpo の例、(62) は Vap の例である。

(61) Vpo, post-verbal

ta pa zai zhuozhi shang.  
 [NP 她/ 他][V 趴][PP 在 桌子 上]。  
 彼女/ 彼 もたれる に 机 上  
 「彼女/ 彼は机の上にもたれかかっている。」

[Li & Thompson 1981: 402, (37b)]

(62) Vap, post-verbal

Zhangsan zi you shangzhang zai Beijing.  
 [NP 张三][ADV 自 幼][V 生长][PP 在 北京]。  
 张三 ~から 幼い 育つ で 北京  
 「張三は幼い時から北京で育った。」

[Li & Thompson 1981: 403, (41b)]

よって、(55) は‘写’や Vpl にのみ当てはまる制約条件ではなく、他動詞に適用可能な制約条件である。

#### 4.4. 場所句の制約条件に関する先行研究との比較

本節では、場所句の制約条件に関する先行研究を紹介するとともに、本論文の主張する制約条件との比較を行う。

##### 4.4.1. Li & Thompson (1981)、王 (1957) による制約条件

Li & Thompson (1981) は、動詞分類に関する制限に加えて post-verbal 場所句には別の制約条件があるとして、(63) を挙げている。

(63) Li & Thompson (1981) の post-verbal 場所句に関する制約条件：

"The postverbal locative phrase must *immediately* follow the verb."

[Li & Thompson 1981: 406, (ii)]

(post-verbal 場所句は動詞の直後に続かなければならない。)

(63) の条件は (64) が容認されないという事実に基づくとしている。

(64) post-verbal

\*wo cang baoshi zai xiangzi li.  
\*[NP1 我][V 藏][NP2 宝石][PP 在 箱子 里]。  
私 隠す 宝石 に 箱 中

[Li & Thompson 1981: 407, (48)]

そして、動詞の直後に post-verbal 場所句が置かれるようにする方法としては、直接目的語を動詞の前に置く‘把’構文を用いる、あるいは動詞が2度現れるようにする<sup>4</sup>というものが挙げられている。

(65) post-verbal、‘把’構文

wo ba baoshi cang zai xiangzi li.  
[NP1 我][BA 把][NP2 宝石][V 藏] [PP 在 箱子 里]。  
私 宝石 隠す に 箱 中  
「私は宝石を箱の中に隠した。」

[Li & Thompson 1981: 407, (49)]

(66) post-verbal、動詞コピー

wo cang baoshi cang zai xiangzi li.  
[NP1 我][V 藏][NP2 宝石][V 藏] [PP 在 箱子 里]。  
私 隠す 宝石 隠す に 箱 中  
「私は宝石を箱の中に隠した。」

<sup>4</sup> 動詞が2度現れるというのは、脚注3の動詞コピーによるものである。

(63) の制約条件と同様のものを、中原 (2006) で言及されている王 (1957) も (67) のように主張しており、その証拠として (68) が挙げられている。

(67) 王 (1957) の post-verbal 場所句に関する制約条件：

「(前略) 《“在”+場所詞》は動詞の後ろに目的語がある場合、目的語の後ろに使用されることは出来ない(後略)」

[中原 2006: 133]

(68) post-verbal

\*ta xie zi zai heiban shang.  
\*[NP1 他][V 写][NP2 字][PP 在 黑板 上]。  
彼 書く 字 に 黑板 上

[中原 2006: 133]

しかし、Li & Thompson (1981) の制約条件や王 (1957) の制約条件は動詞の後ろに置かれる直接目的語を例外なく非文とするものであり、本論文で取り上げた数量詞を含む動詞句の例文が容認されることはそれらの制約条件への反例とすることができる。実際に、中原 (2006) や中原 (2006) で言及されている范 (1982) は、王 (1957) の制約条件への反論という形で別の制約条件を主張している。

#### 4.4.2. 中原 (2006)、范 (1982) による制約条件

中原 (2006) で述べられている范 (1982) は、王 (1957) の制約条件である (67) に対して (69) のような反論をし、(70) の例文を反例として挙げている。

(69) 范 (1982) の post-verbal 場所句に関する制約条件：

(《“在”+場所詞》は動詞の後ろに目的語がある場合、)  
単純目的語でなければ、文は成立する(後略)

[中原 2006: 133 一部省略]

(70) post-verbal

ta xie jige zi zai heiban shang.  
[NP1 他][V 写][NP2 几个 字][PP 在 黑板 上]。  
彼 書く いくつかの 字 に 黑板 上  
「彼はいくつかの字を黑板に書く。」

[中原 2006: 133]

Li & Thompson (1981) や王 (1957) の制約条件を (70) に適用すると非文になるという予測が立てられるが、実際には適格文となるので、(70) は Li & Thompson (1981) や王 (1957) の制約条件への反例としてふさわしいと言える。范 (1982) の制約条件である (69) に対して中原 (2006) も特に反論はしていない。しかし、范 (1982) や中原 (2006) は (70) を制約条件として挙げているものの、なぜ単純目的語でなければ post-verbal 場所句が容認されるのかについては言及していない。つまり、単なる観察による結果を述べているだけであり、制約条件としては不足がある。その点、本論文の主張する制約条件は、限界性を用いることで、なぜ単純目的語でなければ post-verbal 場所句が容認されるのか、さらには数量詞を含む動詞句と共起しなければなぜ容認されないのかを明らかにしたという点で新しい。

#### 4.5. 本章のまとめ

本章では、(44) のミニマルペアを観察することで生じた、(46) の問題Ⅲのような Vpl と共起する post-verbal 場所句に関する制約条件の問題に取り組んだ。

##### (44) a. post-verbal、限界動詞句

wo xie jige zi zai heiban shang.  
 [NP1 我] [V 写] [NP2 几个 字] [PP 在 黑板 上]。  
 私 書く いくつかの 字 に 黑板 上  
 「私はいくつかの字を黑板に書く。」

##### b. post-verbal、非限界動詞句

\*wo xie zi zai heiban shang.  
 \*[NP1 我] [V 写] [NP2 字] [PP 在 黑板 上]。  
 私 書く 字 に 黑板 上

##### (46) 問題Ⅲ：

なぜ単純目的語を含む動詞句と共起するとき、post-verbal 場所句は容認されないのか？

そして、限界の概念を用いて (55) のような制約条件を主張し、その根拠として (56) を挙げた。

##### (55) 主張Ⅲ (post-verbal 場所句に関する制約条件)：

post-verbal 場所句は数量詞を含むことで限界を持つ動詞句と共起されなければ容認されない。

##### (56) 主張Ⅲの根拠：

数量詞を含む動詞句は「限界」、単純目的語を含む動詞句は「非限界」を持ち、

post-verbal 場所句の「内在する限界を明確にする」という機能を適用できない単純目的語を含む動詞句と共起する post-verbal 場所句は容認されないため。

本論文では、先行研究において制約条件とされていたものは観察であるとし、限界の概念を用いた分析を行うことで、単なる観察に留まらない制約条件である (55) を主張した。

## 5. 今後の課題

本論文で未解決の問題は以下の2点である。

(71) 補語になる pre-verbal 場所句に制約条件がないことの説明ができていない。

4章で述べたように、本論文の主張する制約条件を Vpl と共起する pre-verbal 場所句に適用してもどちらも容認されてしまう。Vpl (R) と共起する pre-verbal 場所句と post-verbal 場所句はどちらも補語になるなど、同じ機能を持つと3章で主張しているにもかかわらず、同じ制約条件が適用されないというのは問題である。場所句を含めた中国語における副詞類の一般的な出現位置が pre-verbal 位置であり、post-verbal 位置に出現するのは限られた場合であるという性質が関係しているとは予測できるが、現状その原因は分かっていないので、今後の課題とする。

次に、以下の問題も解決しなければならない。

(72) pre-subject 場所句について考察ができていない。

中国語における場所句の出現位置として、pre-verbal 位置と post-verbal 位置の他に pre-subject 位置が存在することは先行研究でも挙げられているが、本論文では考察外としているため、今後の議論の対象としたい。

なお、先行研究では pre-subject 場所句の制約条件について議論がなされているが、その先行研究にも問題があると考えられる。以下では先行研究の議論の概略を紹介するとともにその問題点を挙げる。

中原 (2006) で述べられている范 (1982) は pre-verbal 場所句に対して (73) のような制約条件を主張し、(74) を根拠として挙げている。

(73) 范 (1982) の pre-subject 場所句に関する制約条件：

pre-subject 場所句は、NP2 (直接目的語) が数量詞を持たないならば、容認不可能である。

(74) a. pre-subject

zai yuanzi li wo zhongle jike juhuar.  
[PP 在 院子 里][NP1 我][V 种了][NP2 几棵 菊花儿]。  
に 庭 中 私 植えた いくつかの 菊の花  
「庭に私はいくつかの菊の花を植えた。」

[中原 2006: 128, [1]]

b. pre-subject

\*zai yuanzi li wo zhong juhua.  
 \*[PP 在 院子 里][NP1 我][V 种][NP2 菊花]。  
 に 庭 中 私 植える 菊の花

[中原 2006: 128]

しかし、中原 (2006) は范 (1982) が (76a-c)、(77a-c) のような例文が成立することを見逃している」と反論し、(75) のような制約条件を主張した。

(75) 中原 (2006) の pre-subject 場所句に関する制約条件：

pre-subject 場所句は、動詞が単音節動詞ならば、容認不可能である。

(pre-subject 場所句は、動詞が単音節動詞と動態助詞の共起で音節が2つになる、または双音節動詞ならば、容認可能である。)

(76) a. pre-subject、単音節動詞+アスペクトマーカ

zai yuanzi li wo zhongle juhua.  
 [PP 在 院子 里][NP1 我][V 种了][NP2 菊花]。  
 に 庭 中 私 植えた 菊の花  
 「庭に私は菊の花を植えた。」

[中原 2006: 137, [1-1]]

b. pre-subject、単音節動詞+アスペクトマーカ

zai yuanzi li wo zhongzhe juhua.  
 [PP 在 院子 里][NP1 我][V 种着] [NP2 菊花]。  
 に 庭 中 私 植えている 菊の花  
 「庭に私は菊の花を植えている。」

[中原 2006: 137, [1-2]]

c. pre-subject、単音節動詞+アスペクトマーカ

zai yuanzi li wo zhongguo juhua.  
 [PP 在 院子 里][NP1 我][V 种过] [NP2 菊花]。  
 に 庭 中 私 植えたことがある 菊の花  
 「庭に私は菊の花を植えたことがある。」

[中原 2006: 137, [1-3]]

(77) a. pre-subject、双音節動詞

zai yuanzi li wo xiujian juhua.  
 [PP 在 院子 里][NP1 我][V 修剪][NP2 菊花]。  
 に 庭 中 私 剪定する 菊の花  
 「庭で私は菊の花を剪定する。」

[中原 2006: 137, [1-4]]

b. pre-subject、双音節動詞

zai yuanzi li wo zaizhong juhua.  
[PP 在 院子 里][NP1 我][V 栽种][NP2 菊花]。  
に 庭 中 私 栽培する 菊の花  
「庭で私は菊の花を栽培する。」

[中原 2006: 137, [1-5]]

c. pre-subject、双音節動詞

zai yuanzi li wo caiji juhua.  
[PP 在 院子 里][NP1 我][V 采集][NP2 菊花]。  
に 庭 中 私 採集する 菊の花  
「庭で私は菊の花を採集する。」

[中原 2006: 137, [1-6]]

(76a-c)、(77a-c) は NP2 が数量詞を持たないが容認される。つまり、中原 (2006) は (74b) が容認されないのは NP2 が数量詞を持たないことが原因なのではなく、動詞が単音節であることが原因であるとしている。

しかし、中原 (2006) の制約条件である (75) にも反例がある。

(78) pre-subject

zai riben henduoren dai kouzhao.  
[PP 在 日本][NP1 很多人][V 戴][NP2 口罩]。  
で 日本 多くの人 つける マスク  
「日本では多くの人がマスクをつける。」

(78) は、場所句が pre-subject 位置に出現し、動詞が単音節であるが、容認性に問題はない。さらに、NP2 に数量詞もないので、范 (1982) の反例にもなり得る。しかし、先行研究に代わる新しい pre-subject 場所句への制約条件がどのようなものになるかは考察できていないので、今後の課題とする。

## 6. 本論文の主張のまとめ

本論文では中国語における場所句に関する以下の3つの問題について取り組んだ。

### (6) 問題Ⅰ：

なぜ場所句は pre-verbal 位置と post-verbal 位置の両方で容認される場合があるのか？

### (28) 問題Ⅱ：

なぜ配置の動詞 (Vpl) の場合、pre-verbal 場所句でも動作の結果としての直接目的語の場所を指定できるのか？

### (46) 問題Ⅲ：

なぜ単純目的語を含む動詞句と共起するとき、post-verbal 場所句は容認されないのか？

そして、(6)、(28)、(46) の問題に対して (24)、(39)、(55) のような主張をした。

### (24) 主張Ⅰ (i)：

Vdi、Vpo、Vap、Vpl はそれぞれ動作動詞 (A) になる場合と結果状態を指定する動詞 (R) になる場合があり、(A) と共起する場所句は付加詞、(R) と共起する場所句は補語である。

### 主張Ⅰ (ii)：

post-verbal 位置に現れる場所句は補語である。

### (39) 主張Ⅱ：

Vpl と共起する場所句は以下のようになる。

Vpl (A) と共起し付加詞となる場合は pre-verbal 位置にしか出現しないが

Vpl (R) と共起し補語となる場合は pre-verbal 位置と post-verbal 位置に出現し得る。

### (55) 主張Ⅲ (post-verbal 場所句に関する制約条件)：

post-verbal 場所句は数量詞を含むことで限界を持つ動詞句と共起されなければ容認されない。

本論文では、中国語における場所句の位置と機能について、先行研究では説明が不足していた部分を文法的機能や意味役割などに着目して分析した。さらに、post-verbal 場所句の制約条件については、限界の概念を用いた分析を行うことで、先行研究で挙げられていた制約条

件のように単なる観察には留まらない制約条件を主張した。

## Appendix: Liu (2009)

### A.1. 動詞分類

Liu (2009) は、post-verbal 場所句が Li & Thompson (1981) による 4 つの動詞タイプよりも多くの動詞と共起できるとしており、限界の概念を用いて (79) のように動詞を分類している。

(79) Liu (2009) による post-verbal 場所句を取る動詞：

#### A. Telic

##### a. directional:

dao                      diao                      diu  
倒（倒れる）、掉（落ちる）、丟（投げる） etc.

##### b. (dis)appearance

chuxian                      xiaoshi                      fasheng  
出現（現れる）、消失（消える）、發生（発生する） etc.

##### c. placement

zhong                      fang                      suo                      xie                      ke  
種（植える）、放（置く）、鎖（鍵をかける）、寫（書く）、刻（彫  
る）、畫（描く）、排列（並べる）、戴（かぶる）、拿（運ぶ） etc.

##### d. combining

tie                      he                      hun  
貼（貼る）、合（結び付ける）、混（混ぜる） etc.

##### e. change of state

lan                      po  
爛（腐る）、破（破る） etc.

##### f. other accomplishments

chi (nage dangao)  
吃(那個 蛋糕)（（ケーキを）食べる） etc.

[Liu 2009: 4-5, (6a-f) 一部省略]

#### B. Atelic dynamic

##### g. process-motion

zou                      piao                      chui  
走（走る）、漂（漂う）、吹（吹く） etc.

##### h. process-non-motion

gongzuo                      wan                      xiao  
工作（働く）、玩（遊ぶ）、笑（笑う） etc.

[Liu 2009: 5, (6g-h) 一部省略]

### C. Stative

#### i. posture

kao                      zuo                      tang  
靠（もたれる）、坐（座る）、躺（横たわる） etc.

#### j. existence

zhu                      qianfu                      gen                      gai  
住（住む）、潜伏（隠れる）、跟（追いかける）、蓋（覆う） etc.

#### k. continuation of an existing state

baoliu                      cun  
保留（保つ）、存（保つ） etc.

#### l. adjectival

hao                      cuo                      nan  
好（良い）、錯（間違った）、難（難しい） etc.

[Liu 2009: 5-6, (6i-1) 一部省略]

## A.2. 限界動詞 (Telic verb)

Liu (2009) は、限界動詞と共起するとき、post-verbal 場所句は3つの方法で出来事の限界を与えるとしている。1つ目は、(80) のように変化の結果としての参与者の場所を示す。2つ目は、(81) のように参与者の結果の状態についての追加情報を与える。3つ目は、(82)、(83) のようにその他の点では示されていない出来事の終結点を明確にする。3つ目の場合、場所句は述語の有界性も与えると述べている。

### (80) a. post-verbal

Zhangsan chuxian zai yanqian.  
[NP 張三] [v 出現] [PP 在 眼前]。  
張三 現れる に 目の前  
「張三は目の前に現れた。」

[Liu 2009: 12, (14a)]

### b. post-verbal

feng yichui                      xuduo yezi                      luo                      zai di                      shang.  
[NP1 風] [v 一吹], [NP2 許多 葉子] [v 落] [PP 在 地 上]。  
風 吹く                      多くの葉 落ちる に 地面 上  
「風が吹くと、多くの葉が地面に落ちる。」

[Liu 2009: 12, (14b)]

(80a) では、場所句は張三が現れた場所を示している。同様に (80b) では、葉が落ちるといふ出来事は葉が地面に着くときにその出来事の終わりを迎える。これらは変化の結果としての参与者の場所を示している。

状態の変化を表す動詞の場所句は、状態を保持している場所を示すことで特定された結果

状態に情報を加える。

(81) post-verbal

xuduo daozi lan zai tian li.  
[NP 許多 稻子][V 爛][PP 在 田 裏]。  
多くの 稲 腐る で 田んぼ 中  
「多くの稲が田んぼで腐った。」

[Liu 2009: 12, (15)]

稲は腐る前にすでに田んぼにあるので、場所句は結果を表しているのではなく腐った状態という出来事の限界についての追加情報を与えているに過ぎない。

Liu (2009) によると、その他の達成動詞は本質的には変化を示さず、場所句は内在するが示されていない一時的な限界を持つ出来事の限界を明確にする。この場合、出来事の終わる場所は范 (1982) による「動作の到達する場所」でもあり、参与者の場所となる場合もあるとしている。

(82) a. post-verbal

bie ba na zang dongxi chi zai zui li / du li.  
[AUX 別][BA 把][NP 那 髒 東西][V 吃] [PP 在 嘴 裏 / 肚 裏]。  
するな その 汚い もの 食べる で 口中 / 胃中  
「その汚いものを口の中で/ 胃で食べるな。」

[Liu 2009: 13, (16a)]

b. post-verbal

\*bie ba na zang dongxi chi zai canting / zhuo shang.  
\*[AUX 別][BA 把][NP 那 髒 東西][V 吃] [PP 在 餐廳 / 桌 上]。  
するな その 汚い もの 食べる で 食堂 / 机 上

[Liu 2009: 13, (16b)]

(83) a. post-verbal

zhejian shi ta kan zai yan li / xin li.  
[NP2 這件事][NP1 他][V 看][PP 在 眼 裏 / 心 裏]。  
この こと 彼 見る に 目中 / 心中  
「この件を彼は目に/ 心にとめた。」

[Liu 2009: 13, (17a)]

b. post-verbal

\*zhejian shi ta kan zai jia li / xuexiao.  
\*[NP2 這件事][NP1 他][V 看][PP 在 家 裏 / 學校]。  
この こと 彼 見る で 家中 / 学校

‘吃那隣東西’と‘看這件事’は内在するが示されていない終結点を持つ出来事を示す限界述語である。場所句の存在は明白な出来事の限界を与える。

### A.3. 非限界動作動詞 (Atelic dynamic verb)

非限界動作動詞については、post-verbal 場所句は動詞を限界述語に変えるとしている。場所句は出来事に場所的限界を与えるか、結果状態を述べる。いくつかの動作動詞 (ex. 跳、滾、滑) はこの文脈で移動性を持つが、他の動作動詞 (ex. 走、跑、漂、跟) は移動性を持たないままであり、この違いはこれらの動詞によって表現され得る場所のタイプに影響があるとしている。なお、両方の可能性を許容する動詞もあるとしており、(84) が例として挙げられている。

#### (84) a. post-verbal

daohang yan fei zai qianmian qita de yanzi zai houmian genzhe.  
 [NP 導航 雁][V 飛][PP 在 前面], [NP 其他的 雁子][PP 在 後面] [V 跟著].  
 誘導する 雁 飛ぶ で 前方 他 の 雁 に 後ろ ついて行く  
 「野生の雁は前方で飛び、他の野生の雁は後ろをついて行った。」

[Liu 2009: 15, (20a)]

#### b. post-verbal

yizhi hudie fei zai ta de jianbang shang.  
 [NP 一隻 蝴蝶][V 飛][PP 在 他的 肩膀 上].  
 一匹の 蝶 飛ぶ に 彼の 肩 上  
 「一匹の蝶が彼の肩に（向かって）飛んだ。」

[Liu 2009: 15, (20b)]

(84a) は移動を持つようになると考えられるが、(84b) は移動を持たないままである。

Liu (2009) は、なぜいくつかの動詞が移動性のある動詞に変化するかはっきりとは分かっていないが、動的出来事が移動を含むかどうかに関係しているかもしれないとしている。つまり、歩く、走る、そして漂うは移動なしで起こり得るが、転ぶ、滑る、そして、跳ぶは移動を含まなければならず、移動を要求する動詞は場所句が後続すると移動性を持ち、移動を要求しない動詞は移動性を持たないままとなる。どちらの場合でも、場所句はその他の点では終わりが無いものに出来事の限界を加える。つまり、場所句は非限界述語を限界述語に変える。しかし、2つの動詞タイプは異なる意味合いを持ち、前者では移動が起こり、後者では動きは移動性を持たない。

(85) a. post-verbal

mao yitiao tiao zai zhuo shang.  
[NP 猫][ADV 一跳][V 跳][PP 在 桌 上]。  
猫 1回 跳ぶ に 机 上  
「猫は一回で机の上に跳んだ。」

[Liu 2009: 16, (21a)]

b. post-verbal

XiaoMing de qiu gun zai lubian.  
[NP 小明 的 球] [V 滾] [PP 在 路邊]。  
明さん の ボール 転がる に 道端  
「明さんのボールは道端に転がった。」

[Liu 2009: 16, (21b)]

(86) a. post-verbal

WanMing pao zai zuiqianxian.  
[NP 王明] [V 跑][PP 在 最前綫]。  
王明 走る で 最前線  
「王明が一番前で走った。」

[Liu 2009: 16, (22a)]

b. post-verbal

ta youxiande zou zai lu shang xinshangzhe lubian de fengjing.  
[NP1 他][ADV 悠閒地][V 走][PP 在 路 上], [V 欣賞著] [NP2 路邊 的 風景]。  
彼 ゆっくりと 走る で 道 上 鑑賞しながら 道端 の 景色  
「彼は道端で景色を楽しみながらゆっくりと道を歩いた。」

[Liu 2009: 16, (22b)]

(85) では、猫とボールはどちらも机や道端にそれぞれ移動しているが、(86) では出来事の間中、王明と彼が一番前あるいは道の上にいる。

(86) は、その他の点では終わりのない出来事に任意の出来事の限界が与えられた場合を表している。このような場合は場所句に後続されても移動性にならないままとなる動作動詞のタイプに見られる。

#### A.4. 状態動詞 (Stative verb)

場所句は存在 (existence) や位置 (position) といった状態動詞に付くとき、状況の限界を表さず、非限界動詞のままとなるとしている。Liu (2009) では根拠の1つとして、(87) のようにこれらの動詞は持続の表現によって修飾され得るということを挙げている。

(87) a. post-verbal

women zhu zai zher zhule shinenle.  
[NP 我們][V 住][PP 在 這兒][V 住了][ADV 十年了]。  
私たち 住む に ここ 住んだ 10年間  
「私たちはここに10年間住んでいる。」

[Liu 2009: 21, (35a)]

b. post-verbal

Laoli zuo zai shafa shang zuole bantian.  
[NP 老李][V 坐][PP 在 沙發 上][V 坐了][ADV 半天]。  
李先生 座る で ソファ 上 座った 長い間  
「李先生はソファに長い時間座っていた。」

[Liu 2009: 22, (35b)]

なお、Dowty (1979: 56) は持続の表現によって修飾され得ることは非限界動詞の性質であるとしており、Smith (1991: 356) はこの特徴は中国語に現れるとしている。

#### A.5. Liu (2009) のまとめ

Liu (2009) では、post-verbal 場所句について以下の問題に取り組んでいる。

(88) どの動詞が post-verbal 場所句と共起できるのか？

(89) post-verbal 場所句はどの環境で出現でき、何の機能を果たしているのか？

そしてこれらの問題に対して以下の主張を述べた。

(90) Liu (2009) の主張：

"The postverbal *zài* phrase has different meanings depending on whether the verbs are dynamic or stative, telic or atelic. For telic verbs, it specifies a locative boundary of the events; for atelic dynamic verbs, it adds a boundary to the events and turns the predicate into a telic predicate; finally, for stative verbs, it does not provide an event boundary, but only specifies the location of a state."

[Liu 2009: 32]

## 参照文献

Dowty, David (1979) *Word meaning and Montague Grammar*. Dordrecht: Reidel.

范繼淹 (1982) 「论介词短语“在+场所”」『语言研究』1: 72-86. (中原 (2006) 参照)

Li, Charles. & Sandra Thompson (1981) *Mandarin Chinese: A Functional Reference Grammar*. Berkeley: University of California Press.

Liu, Feng-hsi (2003) Definite NPs and telicity in Chinese. *Snippets* 7: 13-15.

Liu, Feng-hsi (2009) Aspect and the postverbal *zài* phrase in Mandarin Chinese. In: Janet Zhiqun Xing (ed.) *Studies of Chinese linguistics: Functional approaches*, 103-129. Hong Kong: Hong Kong University Press.

中原裕貴 (2006) 「介詞《“在” + 場所詞》構造の文中位置と文法機能について」『Lingua (上智大学一般外国語教育センター)』17: 125-141.

Smith, Carlota (1991) *The Parameter of Aspect*. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.

王还 (1957) 「说“在”」『中国语文』2: 25-26. (中原 (2006) 参照)

## 謝辞

本論文の執筆にあたり、指導教員である上山あゆみ先生には大変お世話になりました。ご多忙の中、丁寧な指導をして頂き、何度も面談やメールのやり取りをして頂いたこと、深く感謝申し上げます。また、言語学研究室の久保智之先生、下地理則先生、太田真理先生には、講義や演習を通して、言語学の知識をご教授頂きました。中国語の例文作成や調査にご協力頂いた郭楊氏、林愷娣氏にも厚く御礼申し上げます。また、言語学研究室の皆様には日頃から多くのアドバイスを頂き、支えて頂きました。そして、例文の作成から本論文の執筆内容の相談までたくさんの議論を交わしてくれた、言語学の研究者でもあり、母でもある高蓉蓉氏に心より感謝申し上げます。さらに、卒論執筆にあたり、心身ともに支えてくれた両親に感謝致します。

以上の皆様をはじめ、多くの方々のおかげで本論文を執筆することができました。本当にありがとうございました。